

#オオイタレキシ旅 2024

大分市内にあるとおきの文化財の魅力を
お届けします！

— 第三弾 —
ささむた
西寒多神社
まんねんばし
萬年橋
じんこ
神庫

しんえん 神苑を文化財が彩る「西寒多神社」

藤の名所として知られる西寒多神社には、二つの建造物が指定文化財となっています。

一つ目は、神社入口を流れる寒田川に架かる石橋「萬年橋」(県指定有形文化財)です。江戸時代末期(1862年)に造られたアーチ橋で、その姿は素朴にして力強く、孤形の美しさは実に見事です。

二つ目は、本殿の西に位置する校倉造りを特徴とした高床式の建物「神庫」(市指定有形文化財)です。「神庫」とは宝物を納めておく倉のことで、断面がそろばん玉の形をした木材を井桁状に組み重ねて建てられています。

静かな川沿いにたたずむ西寒多神社は、藤の季節以外にも魅力がたくさんあります。自然と歴史を感じに訪れてみてはいかがでしょうか。



紫に彩られた藤棚と萬年橋



ひっそりと佇む神庫



本殿に向かう参道



Point

市指定天然記念物の「ヤマフジ」は県内でも類を見ないほどの巨木です。花の季節には辺り一面甘い香りに包まれ、4月末頃には「ふじ祭り」が開かれます。開花状況によって変わりますので西寒多神社Webサイトをご確認ください。

Access

所在地：寒田1644番地
※大分駅から車で約30分
駐車場：80台(無料)

問 文化財課 ☎578-7546

Next Journey!
次回(たかせ)は高瀬石仏です。

Q市報クイズ

○に入る言葉は何か？

道の駅たのうららに設置されている、
かつて別大国道を走っていた大型展示物は？

路面 ○ ○

ヒントは、この市報の中にあります。

スマホはがきで応募！

正解者の中から抽選で、関ぶり・関さばを使った加工品セットを3人にプレゼント！ ※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



応募方法

スマホ 右の二次元コードから応募してください。

はがき はがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、7月15日(月)〈消印有効〉までに広聴広報課(〒870-8504 荷場町2-31 ☎537-5713)へ。



6月号
「市報クイズ」の
答え

警戒レベル4「**避** **難** **指** **示**」発令時は、
危険な場所に居る人は必ず避難！

今号の表紙は、7月7日(日)にオープンする「道の駅たのうらら」！🎵🎶
シャワーブースがあり、車で

の利用はもちろん、ランニングやサイクリングの途中でもリフレッシュできます！🚴🚶



道の駅たのうらら2階には、おとの聴こえる広場(上記写真)や飲食コーナーがあり、景色と音楽、グルメを楽しむことができます。🎵🎶
みなさん「来て」「見て」「買って」楽しんでください！

市民図書館からのお知らせ

夏休み期間中のイベント

①図書館探検ツアー 無料

月 日：7月20日・27日、
8月3日・10日・17日・24日
(土曜日・全6回)

②ようこそ！電気の世界へ 無料

発電方法を学び、電気を作る実験
月 日：7月24日(水)

③夏の星座と工作

天体講座、星座早見盤の工作、天体観察
月 日：7月27日、8月17日
(土曜日・全2回)

参加費：500円

④かるた遊び 無料

月 日：7月28日、8月18日
(日曜日・全2回)

申込み、詳しい内容など、市民図書館ホームページをご覧ください。



問 市民図書館 ☎576-8241



5文字で星座と神話
すとうけんたろう・著・イラスト
講談社
星座にまつわるお話をたった5文字で表すと…。クソツと笑えてお勉強にもなる楽しい星座の本です。星占いから歴史まで星座に関する雑学がとてもしっかりやすく解説されています。観測しやすい日も載っているのが便利です。



紫式部ごはんで若返る
永山久夫・著
シード・プランニング
紫式部はイワシが大好物だった！平安時代の美と健康の源として、さまざまな食材を紹介した本です。重い十二単を優雅に着こなしていた平安美人たちは、しっかりと食べて体力も知力もパワーアップさせ、後世に残る作品を描いていたのでしょう。

人権・同和教育シリーズ 547

人の生き方を考える

〇〇というだけで…



「外国人の転入生がクラスにきたよ。同じマンションだから一緒に帰ってきた」とうれしそうに息子が帰宅してきました。そう言えば、最近、近所の人が「マンションの前で立ち止まってキョロキョロしている外国人がいて怖い」「外国人って言葉が通じないし、文化も違うから、接し方が分からない」と言っていたことを思い出し、何だか不安になりました。

わたしの思いをよそに、息子は毎日のように外国人の友だちと公園で遊ぶようになってきました。わたしは心配になり「どんな人かも分からないでしょ。あまり仲良くならない方がいいんじゃない」と伝えると、息子は「何でそんなことを言うの。彼のことを何も知らないくせに」と言ったのです。しばらく息子のムツとした態度と言葉が忘れられずにいる中、わたしは、ふと自分自身が中学生の頃に体験した出来事を思い出しました。それは、新しくできた友だちを家に連れてきたときのことです。友だちが帰った後、父が「あの子とは遊ばないように」と言ったのです。わたしが理由をたずねると、父は少し怖い表情で「そんなことは、どうでもいい。あの子とは付き合な」と言うのです。それでも、わたしは、友だちと関わり、友だちのことを知れば知るほど「父の言っていることは意味が分からない。理不尽でおかしい。何も知らないくせに」と思っていたこと…。あのときは、違和感や父への怒りを感じていたはずなのに、今わたしが息子にしていることは、父がわたしにしたことと同じではないだろうか。自分が安心したいがために、うわさや偏見で人を判断し相手を避けようとしてきていることに気付いたのです。そして、もう一つ、関わりを持ち相手を知っていくことの大切さを感じ出させてくれました。今度、息子に「外国人の友だち、うちに遊びに連れておいで」と言ってみようと思います。

立場が変わったり自分事になったりすると、差別の芽が出てくることがあります。まずは、それを理解することが大切です。差別解消への第一歩は、関わっていくことで相手を知ること、知ろうとしていくことなのです。